

# 第2章 それぞれの1年

両校にとって「男子校最後」・「白女最後」となった2009年度。それぞれの「最後」を飾るべく、そして、これまでの先輩たちが築き上げてきたものに負けないように、熱い思いを持って生徒たちはこの1年を過ごしてきた。第2章では、両校が歩んだラスト1年を振り返る。

## 白女入学式 女子校最後の年の幕開け

平成21年4月8日、白女最後の入学式が行われた。最後の入学生は普通科161人、看護科40人を合わせた201人。制服姿にとまどうような、幼さが残るその顔に、入学できる喜びと高校生活への緊張が入り交じった表情で、入学式を迎えた。

担任の先生が入学生の名前を呼び、返事とともに起立。ここで、入学生201人全員が須藤

亨校長から入学を許可された。須藤校長は、「合格発表の喜びと感動を忘れずに、これから始まる高校生活を充実させてください」と入学生を歓迎した。

## もうひとつの入学式 専攻科看護科入学式

白女は、平成14年4月に県内で唯一、5年制の看護科が設置された。この専攻科看護科の入学式が、翌日の4月9日に行われた。平成21年3月に看護科を卒業した36人のうち30人が入学。白衣の天使への第一歩を踏

み出した。今回の入学生が、新白石高校での専攻科看護科第1回の卒業生となる。

## 白女の名を後生に残す 記念碑除幕式

4月25日、白女99年の歴史を後世に伝えようと、正門前ロータリーに建立した記念碑除幕式が行われた。記念碑には、高等学校と女子高等学校の校歌が刻まれ、約1世紀に渡る歴史の舞台となった地に、同窓生みんなの願いがこめられた。

除幕式では、吉村昌美同窓会長と生徒会長の西恵子さん（当時3年）が除幕を行い、式典に集まった同窓生や在校生、約300人の前で披露した。あいさつに立った吉村会長は、「この碑を見るたびに、母校への感謝、地域の皆さまへの感謝、そして友人たちとの思い出に、思いをはせることでしよう」と思いもひとしおの様子。また、須藤亨校長は、「この石碑は、この地に白石女子高等学校があったことを、永久に伝えていくことになる」とも、本校の99年の歩みは、同窓生、在校生の人生の歩みと重なるものであります。この石碑は命の道、そして未来へのみちしるべであると言えるものです」とあいさつした。

## 白寿を迎えたお祝い 創立99年記念式典

10月28日、白女の創立99年記念式典が行われた。記念講演の講師を務めた作家の岩槻優佑さん（43回卒）は、「なまなきはなやま」で平成19年に朝日新聞社が主催する「第18回朝日新人文学賞」を受賞した、いわば白女自慢の卒業生である。

「あなたの花を咲かせよう」と銘打った講演では、白女時代のエピソードや東京での大学生生活などを通じて感じた、白女の



1普通科入学式 2専攻科看護科の入学式 3白石城と桜の前で演奏会をピーアールする合唱部 4雨の中行われた記念碑除幕式 599年記念式典で講師を務めた岩槻優佑さん

素晴らしい交えながら、白女時代の経験が今の優佑さんの人生観を築いたと熱く語った。「白女で過ごした時間は、あなたの人生の中で花を咲かせるときの、最大の力と必ずあります」と話す優佑さん。統合高としても、白女時代の伝統と誇りを持ち続けてほしいと締めくくった。

## 白高入学式 男子校最後の年の幕開け

白女と同日の4月8日、白高体育館で入学式が行われた。全日制161人、七ヶ宿校8人、計169人が式に臨み、1人ずつ名前を呼ばれ、緊張した面持ちで返事をしていった。

千田芳文校長の式辞では、「高校は社会的自立に向けた訓練期間。明るく健やかで充実した高校生活を期待しています」とあいさつ。続いて新入生の伊藤智毅さんが、「誇り高き白高生としての自覚を持ち、いろいろなことに挑戦していきます」と、代表であいさつを述べた。また、入学式後に新入生にインタビューすると、「男子校最後の入学生になったことをうれしく思います」「定期戦で絶対勝ちたい

です」など、期待を胸に話してくれた。

## 対面式と応援練習 上級生の手厚い歓迎

入学式翌日の4月9日以降、白高は5月9日に行われる定期戦モード一色に染まる。まずは、伝統の行事である対面式が体育館で行われた。いわば、新入生の歓迎会のようなものである。新入生は、クラスごとにステージに上がり上級生にあいさつをした。そして、生徒会長の高橋尚也さんが「まだ新入生を『真の白高生』とは認めていない。5月に行われる角田高校との定期戦に向けて、応援練習を頑張ってください。勝利の暁には、凱歌と一緒に歌い、真の白高生として認める」と厳しい言葉を述べた。

## 校内球技大会 上級生や先生と真剣勝負

定期戦が終わると、各部活動では仙南総体や県総体が続き、あつという間に夏休みを迎える。夏休み期間中は受験勉強や部活動、夏休み明けの文化祭の準備など、それぞれに自分がやるべきことをこなしていく。夏休みが明け実力テストが終

わると、球技大会・文化祭と続き、校内はちよつとしたお祭り週を迎える。

8月26・27日の両日には、校内球技大会が行われた。かつて白高には、陸上祭・水上祭・マラソン大会・球技大会の4つの校内体育大会があった。いずれも歴史ある行事だったが、時代とともに大会は減り、今では球技大会を残すのみとなった。

昨年の種目はバレーボール、バスケットボール、ソフトボール、卓球、バドミントン、ソフトテニスの6つ。クラスごとにチームを結成して臨んだ大会では、学年・先生も関係なく真剣勝負が繰り広げられた。ただそれ以上に昨年は、「男子校最後」というこの時を仲間とともに楽しみたい」という思いが伝わってきた。

## 両校の伝統行事 白角定期戦と白女三大祭

両校を語る上で欠かせないものがある。それは、白高にとっては5月に開催される白角定期戦。白女にとっては、6月から8月にかけて開催される、体育祭・合唱祭・文化祭を合わせた白女三大祭である。それぞれの歴史は古く、生徒たちが最も輝く瞬間のひとつである。また、選手も応援する人も、クラスも高校全体も、ひとつの目標に向かって一致団結する瞬間でもあり、まさに両校の「伝統」と呼ぶにふさわしいものである。ただでさえ生徒の思い入れが強いこの行事。その上、昨年は「男子校最後」「女子校最後」という節目の時を迎えた。これで生徒たちが盛り上がりがないわけがない。



6入学式の様子。緊張した雰囲気が写真からも伝わる 7定期戦前日に行われた杜行式 8球技大会で生徒たちは、仲間との思い出を作るように楽しんだ

8ページ以降では、「男子校最後」「女子校最後」を胸に刻みながら臨んだ、両校の伝統行事である「白角定期戦」と「白女三大祭」に向けた生徒たちの思いを伝える。生徒たちは「最後」に何かを残したい、先輩たちが築いてきたものを上回りたいと真剣に取り組んだ。一生懸命取り組んだからこそ、そこには心の底からわき出る「笑顔」と「涙」があった。